

横浜市立市ヶ尾小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○ 子ども一人ひとりを大切にして、学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し、自信をもって行動する子を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・ 一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・ 健康な心身をつくるための生活習慣の形成と災害時におけるリテラシーの育成に努めます。 ・ まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		基礎基本の定着に重点を置き、教職員組織としての指導力と地域教育を生かして、児童が主体的に問題解決していく姿や表現力の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験を重視した活動や分かりやすい授業を工夫し、学力の向上を図る。 ○ 朝学習(モジュール等)の指導時間の有効活用により、基礎学力の向上を図る。 ○ 教室環境等、児童の実態に合わせ、学習環境に配慮をしていく。
	担当		

2 横浜市学力学習状況調査等

からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

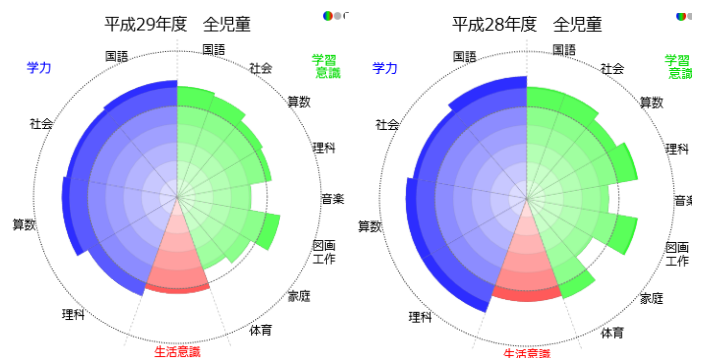
教科の学力は、全体として市の平均を上回っている。生活意識も市の平均より高い状況にある。学習意識は教科によってばらつきがあるが、おおむね市の平均を上回っている。

各教科の大切さを感じており、学習が自分の生活や社会に出て役立つと考えている。また、生活意識において自己尊重感が高いことから、充実感、自己有用感をもって学習に意欲的に取り組んでいると考えられる。

(2) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

平成26年度から29年度の過去4年間の経年変化を見ると、学校全体として学力、学習意識、生活意識がともに高い状況が続いている。

このような状況から、今後も引き続き、指導時間を有効に活用しながら、基礎・基本の定着・向上に力を入れていく。特に、自分の考えを伝え、人の考えを理解して、伝え合う力を伸ばしていく。また、体験を重視して、児童が実感を伴うようなより分かりやすい授業を工夫していく。また、見通しをもって考え、判断していくような、活用する力もさらに伸ばしていくようにする。そのようにして、学習が好きで、よく分かる児童を増やしていきたいと考える。



3 平成30年度 学年の具体的取組

1 学年

- 国語科等で、表現活動を大切にするとともに、伝え合う場面を位置付ける。
- 詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら伝え合うことを指導する。
- ひらがな、かたかなとともに、配当漢字が文中で正しく使えるよう指導する。

2 学年

- 国語科等で、表現活動を大切にするとともに、伝え合う場面を位置付ける。
- 聞かれていることに合わせて答えたり、言葉で相手に分かるように説明したりしながら伝え合うことを指導する。
- ひらがな、かたかなとともに、配当漢字が文中で正しく使えるよう指導する。

3 学年

- 自分の考えを分かりやすい文章にして、話したり書いたりして説明する学習の場面を位置づける。
- 国語科等で、質問されたことに答えたり、内容に応じて質問したりすることを指導する。
- 見通しをもって筋道立てて表現したり処理したりできるよう指導する。

4 学年

- 文章の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ることがよりよくできるよう指導する。
- 体験を重視した学習の場面を位置づける。
- 目に見えない事象についても考え、説明する力をつけていく。

5 学年

- 目的に応じた文章の書き方の工夫を身に付けられる学習活動を組み立てる。
- 基礎・基本が定着するよう指導するとともに、活用問題にも取り組む機会を増やす。
- 知識・理解だけでなく、思考・判断・表現の力をつけていくように学習活動を組み立てる。

6 学年

- 自分の考えを支えるための根拠となる材料を集めて表現していく学習活動を組み立てる。
- 資料を活用して情報を読み取り、問題意識をもつような学習活動を組み立てる。
- モデル実験と実際の場面との関連を捉えたり、実物を操作したりする学習の場面を位置づける。

6 組

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づいた支援を行い、「生きる力」の伸長を図る。
- 適切なコミュニケーション手段を活用する場面を積極的に設け、基本的生活習慣の技能の向上と習慣化を図る。
- 子どもの実態に応じて、各学年の学習内容を取り上げたり、交流学习を行ったりする。
- 短い言葉で伝える、掲示物や具体物による視覚支援を行う等、情報発信に配慮する。